

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態
東洋医学	必修	1	4	2		日本語		オムニバス

【担当教員】 総合診療・総合内科学講座・西田欣広、医学教育センター・山本

【科目名の英文】 Oriental Medicine (Kampo Medicine)

【授業の概要・到達目標】

漢方を医療の選択肢の中に取り入れるようになるために、漢方医学は西洋医学とは異なる概念を持つ医学であることを理解し、日常診療における漢方の有用性を認識する。

具 体 的 な 到 達 目 標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 漢方医学の基本的な考え方について概説できる。 ①日本における漢方医学の歴史を概説できる。【中国伝統医学とその伝来、漢方医学の成立、漢方医学と中医学の現状】（黄帝内経、神農本草経、傷寒論、金匱要略） ②漢方医学における診察法と証を概説できる。 ・証の概念を概説できる。（陰陽・虚実・寒熱・表裏、五臓、六病位、気血水の理論の概念） ・四診【望診（舌診）・聞診・問診・切診（脈診、腹診）】を概説できる。	○		○	○		
2. 代表的な漢方処方構成と効果、副作用を概説できる。 ①代表的な漢方処方と、主な生薬の作用について漢方医学（経験的・漢方薬理的）および西洋医学（エビデンス）の観点から説明できる。（大建中湯、抑肝散、六君子湯、加味逍遙散、八味地黄丸、葛根湯） ②構成成分で薬理作用を有する物質の作用（副作用）を説明できる。（エフェドリン、グリチルリチン、アコニチン）	○		○		○	
3. 漢方が臨床において用いられている現状を概説できる。 ①西洋医学に漢方薬（和漢薬）を取り入れると有用な例を提示できる。 ②全人医療から見た漢方の有用性を説明できる。 ③鍼灸治療の適応疾患と禁忌、合併症を概説できる。		○		○		○
各DPへの関連度（計10）	4	1	2	1	1	1

【授業の内容】

回数	授業内容	担当講座・教員	方法
1	漢方医学の歴史（第1章）	成田（真央クリニック附属鍼灸室）（非）	講義
2	漢方薬の基本（第3章1）生薬（第3章3）	伊東（薬剤部）	講義
3	代表的な漢方薬とEBM（第3章2）	後藤（福祉健康科学部）	講義
4	気血水（第2章2）女性と漢方（第4章）	黒田（三愛病院）（非）	講義
5	証の概念（第2章1）六病位・五臓（第2章2）	西田（にしだ漢方内科・レディースクリニック）（非）	講義
6,7	漢方医学の基本理論（第2章2） 漢方医学の診察法（第2章3）（課題）	織部（織部内科クリニック）（非）	講義 実習
8	高齢者と漢方（第4章）	阿南（織部内科クリニック）（非）	講義
9,10	鍼灸治療（第5章）	成田（真央クリニック附属鍼灸室）（非）	講義 実習
11,12	中医学（補講）	東洋医学研究会所属の学生	講義 実習

【アクティブラーニングの内容】 腹診シミュレータを用いた腹診、漢方薬（煎じ薬）の作り方、症例ベースの臨床推論、鍼灸の実技の実際を体験する。		【その他の工夫】 2 コマの授業を東洋医学研究会の学生が担当し、Near-peer-learning の手法を用いた教育を行う。	
【時間外学修の内容と時間の目安】			
準備学修	テキストを事前に読んでおく（12h）。講義をする学生は、講義スライド作成や勉強会（12h）		
事後学修	資料を用いて復習する（12h）。		
想定時間合計	24（36）		
【教科書】 「基本がわかる漢方医学講義」日本漢方医学教育協議会編、羊土社、2020 年発行 ISBN 978-4-7581-1875-0			
【参考書】 「学生のための漢方医学テキスト」日本東洋医学会学術教育委員会編、南江堂、2007 年発行 ISBN, : 978-4-524-25031-8			
【成績評価方法及び評価の割合】 授業態度と提出物（30%）および筆記試験（70%）で総合的に評価する。 オンライン授業となった場合： Moodle 上の全てのオンデマンド授業と Zoom によるリアルタイム授業を受けて、指定された全ての提出物を提出していなければ、受験資格を与えない。			
【注意事項】 講義スケジュールの詳細は Moodle を通じて事前に連絡する。			
【備 考】 特になし			
リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	☐		
教員の実務経験	医師、薬剤師		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	☐		
教員以外の指導に関わる実務経験者	鍼灸師		
実務経験をいかした教育内容	東洋医学の診察法、診断、治療について講義と実習を行う。		
授業形態	対面授業		